

どうじょうくん

# 道場訓

わたしが目指し、求めている人間像についてはすでに理解していただけたと思いますが、ここに  
しどうかんからてどう、すす、みち、またそれを学ぶ者がとるべき態度を示唆する道場訓をあげますので、  
士道館空手道が進む道、またそれを学ぶ者がとるべき態度を示唆する道場訓をあげますので、  
意味をよく考え、もう一度空手を学ぶ者としてあるべき理想の姿を理解してください。

## 【一、士道に背きまじき事】

士道とは人に仕え奉仕する精神より始まる道である、ということはいくつか述べてきた通りです。この道は、それを目指す  
一人ひとりが自らもとめていかなければならない魂のあり方であり、それは道場においてばかりではなく、一個人とし  
て社会に生きているとき、どこで何をしようとも、道に外れるようなことをしてはならないということです。

## 【二、礼節を重んじ人格の向上に努力する事】

「礼に始まり礼に終わる」と聞いたとき、一つの形を思い浮かべることでしょう。試合において組み合う前に礼をし、  
終わってからまた礼をするという場面をまず想像するに違いありません。  
しかし、そういった表に現れた姿形のみを真似したところで、礼に含まれる本当の意味を知らなければ、何の意味も  
ないのです。指導における礼とは、厳しい試練、修行を自ら課し、痛みや辛さというものを肌で感じながらも、それに前向き  
に耐え進むところからおのずと謙虚な心が生まれ、それが礼という形になって自然と現れるのです。  
礼の心を知るべく自分を向上させる努力こそが、士の道の第一歩だということを深く認識して欲しいのです。

## 【一、心身を錬磨し自己の研鑽に励む事】

私は空手を、一つの健康法としても大変有意義なものであると思っています。空手の修行を通じて頑健な肉体を  
作り上げることが、武道精神の追求、ばかりではなく、社会人として空手をやった経験を己の道に生かそうとする者に  
とっては、大切な礎となるのです。とにかく、日々の研鑽こそが自分の明日を拓くということを忘れないでください。

## 【一、質実剛健を旨とし、敬天愛人の精神を涵養する事】

物質にとらわれた人間は虚しい生き方しか出来ない。物の善し悪しは相対的なものであり、たとえ欲しい物を手に入れる  
ことが出来たとしても、決して心底からの満足は得られないものです。  
物が豊かであるとか、ないとかということにとらわれず、己の精神の内に豊かさを見出すように心掛けるべきなのです。

## 【一、私事の鬭争を禁ずる事】

本来武道とは、人を殺すことではなく、人を生かすためのものなのです。士の道とは、突き詰めれば、世のため人のために  
命までも投げ出して奉仕する精神にあると云えるのです。

『武士道とは死ぬことと見つけたり』という言葉に代表される。義のためならば自らの死をも賭して奉仕する精神、それ  
こそが侍の魂なのです。

私事の争いにその技を使い、大義に反するのなら、その者は道の途上にあらず。ということをお心に銘じてください。